船橋県税事務所長賞

「推し」のためには納税

船橋市立芝山中学校
第三学年　松田　鈴

近年、「推し活」という言葉をよく耳にする。自分が熱中しているアイドルやアニメのキャラクター、アーティストなどを応援する活動のことだ。私にもずっと応援したいと思う推しがいる。推し活は私の生活に潤いを与えてくれて、とても生きがいになっている。限定グッズを買い、ライブに行き、推しが出ている映像作品は全て楽しむ。こうした一連の活動をする日々の中で、私は自分の財布から出ていくお金の中に必ず含まれる「税金」の存在に深く気がついた。

最も身近な税金は「消費税」だ。推しのグッズを千円で購入する時、私たちは百円の消費税を払っている。お小遣いや家の手伝いをして稼いだ限られたお金の中から支払う消費税は、正直に言えば、少し重い負担に感じることもある。「この消費税がなければ、もう一つランダムグッズを買えたかもしれない」と考えたことも少なくはない。しかし、税金について詳しく学ぶにつれ、私たちが支払っている税金は回り回って私の推し活そのものを足元から支えてくれているのではないかと思うようになった。例えば、大好きなアイドルのライブ会場へ向かうときのことを考えてみる。私は整備された道路を歩け、時間に正確な電車に乗れ、当たり前のように会場に行くことができる。ライブが少し夜遅くに終わっても、街灯が明るく灯る安全な道を安心して帰ることができる。もし、日本の治安が良くなければこんなにも安心して推し活を楽しめないだろう。そしてこれらのインフラや警察・消防といった公共サービスは、全て私たちが納めた税金によって維持されている。さらに、エンターテイメント業界そのものも税金と無関係ではない。文化庁など国の機関は、日本の芸術文化やコンテンツ産業を振興するために税金を財源とした補助金を出している。劇場やホールの維持管理やクリエイターの育成など、私たちが良質なエンタメを受け取ることのできる環境づくりにも税金が一役買っているのだ。つまり、私が支払った消費税は、推しが活動するステージを守り、そこへ安全に向かうための社会の基盤を作っていることになる。また私は、推し活を通じて「納税」という義務の重みも実感するようになった。推したちが素晴らしいパフォーマンスを続けられるのは、彼ら自身や所属事務所が正しく税金を納め、社会の一員としての責任を果たしているからでもある。

これまでは、税金を「国に一方的に取られるもの」とネガティブに捉えがちだった。だが、推し活というフィルターを通して社会を見てみると、税金は「みんなの好きや安心を守るための会費」のようなものであると理解できた。これからも私は、推しを応援し続けるだろう。だから私は、自分が支払う税金がこの豊かな社会を維持し、未来のエンタメを守る大切な財源となっているという誇りを持って、快く税金を納めていきたい。